



# 訓練の企画と準備

目的 | 訓練の企画と実施のための準備をします。

## (1) 訓練実施区域の設定と災害リスク等の情報収集

### ① 訓練を実施する区域を決めます。

解説書 p.8

(自治会や町内会等の範囲が基本です。概ね20ha程度まで、まち歩きで無理なく歩けることに留意して設定しましょう。)



### ② 区域で想定される災害リスクを把握します。

解説書 p.9,10

(参加者にまちの被害の状況をイメージしてもらうため、区域の災害リスクを把握します。自治体で入手できるハザードマップを確認することから始めましょう。)



参考イメージ：碧南市地震防災ハザードマップ

### ③ これまでの地域の防災やまちづくりに関する活動を整理します。

解説書 p.11

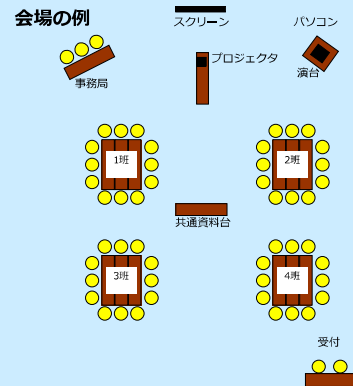
(これまでの活動を皆さんで共有するため、活動している組織、内容、時期、頻度、取組成果を整理しましょう。)

## (2) 日時・会場の設定と参加者の募集

### ① 訓練を実施する日時と会場を決めます。

解説書 p.12

(多くの人が参加しやすい日時、会場を選びましょう。訓練1はまちを歩くため、日中に行います。)



### ② 訓練の参加者を募集します。

解説書 p.12

(30名程度が目安です。既存の組織を通して依頼するなどして、幅広くよびかけをしましょう。)



### ③ 参加者をいくつかの班に分けます。

解説書 p.12

(まち歩きや話し合いがしやすいよう、1つの班を5~8名程度として、参加者を班分けしましょう。)

## (3) 訓練（まち歩き、まち歩きの発見・テーマ）の準備

### ① まち歩きルートを設定します。

解説書 p.13

(訓練会場を起終点とし、30分程度で歩ける距離を目安として設定し、ルート図を作成します。区域が広い場合などは、班ごとに別のルートを設定しても構いません。)



### ② 資料と道具を用意します。

解説書 p.14

(リストを参考に、訓練で用いる資料や道具を用意します。パソコン等が準備できない場合は、紙媒体の使用も可能です。)



発見・テーマ・提案の表		第 班
表1: 特に留意点と、まち歩きの発見	発見後	発見後
表2: 発見まちづくりのテーマ	発見後	発見後

項目	数量
<input type="checkbox"/> パソコン・プロジェクタ・スクリーン ガイダンス資料	各1セット
<input type="checkbox"/> まち歩き地図	参加人数分
<input type="checkbox"/> 筆記用具(サインペン等)	参加人数分
<input type="checkbox"/> 画板	参加人数分
<input type="checkbox"/> デジタルカメラ	班数分
<input type="checkbox"/> 巻き尺	班数分
<input type="checkbox"/> マーカーペン	班数分
<input type="checkbox"/> ふせん紙	班数分
<input type="checkbox"/> 大判地図 (まち歩き地図をA1に拡大)	班数分
<input type="checkbox"/> 発見・テーマ・提案の表	班数分
<input type="checkbox"/> 三角スケール	班数分
<input type="checkbox"/> 粘着テープ	1巻
<input type="checkbox"/> 指し棒	1本
<input type="checkbox"/> 飲み物やお菓子	参加人数分

### ③ 企画・運営者の役割分担をします。

解説書 p.14

(当日の訓練を円滑に行うため、全体の進行役や説明者、班のリーダーなど、企画・運営者の役割を決めておきます。)



# まち歩き

目的 | 班ごとにまちを歩き、災害時に危険な所や役立つ所、まちの魅力を探します。

## 身支度をしましょう (5分)

自己紹介を  
してください。

- 班の人に、名前とひとこと、挨拶をしましょう。

持ち物とまち歩きルートを確認してください。

- 筆記用具等の道具や貴重品は、持っていますか？
- まち歩きのルートを確認しておきましょう。



「まち歩きで探すもの」を確認してください。

【大地震や津波発生時に危険なところ】

- ・道が狭くて避難が大変そう
- ・塀や建物が崩れそう
- ・瓦や看板が落ちそう …等



【被災時に役立つところ】

- ・広い空き地は一時避難に使える
- ・消火栓や防火水槽 …等



【被災後も大切にしたいところ（魅力）】

- ・神社、地域の伝統は残したい
- ・美しい自然環境、象徴的な木 …等



## まち歩きに出かけましょう (55分)

まち歩き

- ルートに沿ってまちを歩きましょう。(多少変更しても構いません。)
- 「今地震が起きたらどのようになるだろう」など被災したイメージをしながら歩きましょう。
- 「まち歩きで探すもの」を見つけたら、どんどん「まち歩き地図」にメモしましょう。
- 気になる場所があったら、カメラで撮影しましょう。



「ここ危ないよね」「これは残したいね」  
会話をしながらまち歩きをすることで、新しい発見があります。



注意事項

- 交通安全には十分気をつけましょう。
- 班でまとまって歩きましょう。
- 体調が悪くなったら無理をせず、班の中にいる運営者に申し出ましょう。
- 他の通行者に迷惑をかけないように注意しましょう。
- 地域の住民の方が気分を害するような発言（特定の家を指して危ないと言う等）は慎みましょう。

まち歩きの時間

: ~ :

わからないことは運営者までお尋ねください。

# まち歩き結果図

目的 | まち歩きの結果を班で話し合いながら 1 枚の大判地図にまとめます。

## まち歩きでの発見を書き出し、結果図として整理しましょう (10分)

班のリーダーが、話し合いの進行や取りまとめを行います。

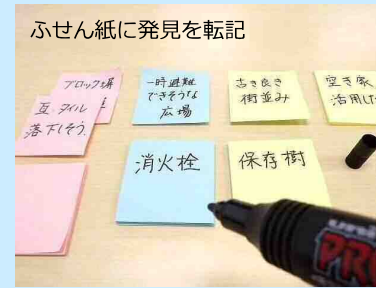


班のリーダー

各自で、まち歩き地図のメモをふせん紙に書き出します。

- 1 枚のふせん紙には、1つの事柄を書いてください。
- メモの内容に応じて、ふせん紙の色を使い分けます。

赤	青	緑	黄
災害発生時 危険な所	被災時に 役立つ所	被災後も 大切にしたい所	その他 気づいたこと



ふせん紙に発見を転記

ここで使うもの



マーカーペン



ふせん紙



大判地図

## 発見を地図に整理しましょう (50分)

ふせん紙を地図に貼ってください。(30分)

- 自分が書いたふせん紙を、地図上でそれが該当する箇所に貼ってください。
- 他の人と似た発見をされた方は、同じ内容のふせん紙は近くなるように貼ってください。
- 順番に一人ずつ自分が考えたことをコメントしてください。



地図に貼り付けます

班のリーダーは、同じ意見を分類して地図を整理してください。(20分)

- 同じ発見が書かれたふせん紙を、ふせん紙と同色のマーカーペンで囲みます。
- 各発見が地図上のどこを指しているのか、わかりやすいように、マーカーペンで囲んだり、矢印を描き込みましょう。



場所や内容が似ている発見は、ふせん紙と同色マーカーで囲う。

発見箇所を★印や矢印などでわかりやすく表示する。

まち歩き結果図作成例

### 話し合いのルール

- ・全員が一度は話しましょう。
- ・人の話は最後まで聞きましょう。
- ・違う意見も尊重しましょう。
- ・考えたことは発言し、記録しましょう。
- ・時間を守りましょう。

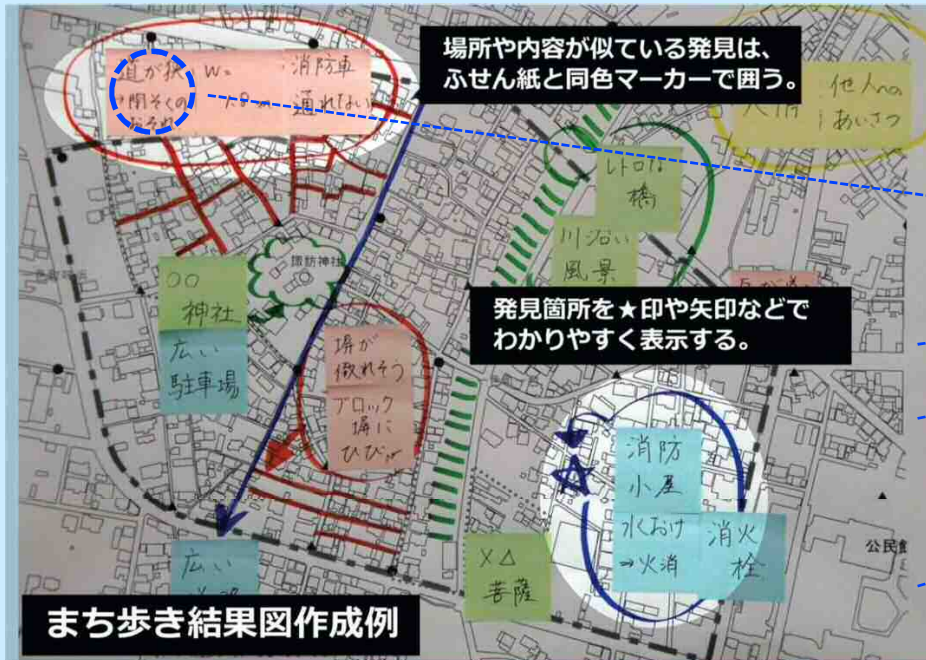
# まち歩きの発見・テーマの整理

目的 | 重要なまち歩きの発見を整理し、テーマを設定します。

まち歩きでの重要な発見を書き出し、発見・テーマ整理表としてまとめましょう (30分)

ハザードマップを確認しながら、まち歩きから特に重要だと思う発見を整理し、まちを復興するためのテーマを決めます。

□ まち歩き結果図から、特に重要だと思う発見を討論しながらいくつか選び、右図の表①に記入します。



**提案時のヒント**  
 ・まち歩きで気づいたことの中から、特に地域にとって重要だと思う発見を班で討論しながら選びましょう。

**発見・テーマ整理表 (記入例)**

まち歩き結果図から、皆さんが特に重要だと思う発見をいくつか選び、表①に記入します。  
 表①に記入したのが、今のまちの主な「課題」と「よい所」です。これらを踏まえ、仮に被災した場合、どのようなまちとして復興したいか、皆さんで決め、短文で表②に記入します。

**表① 特に重要だと思う、まち歩きの発見**

災害発生時 危険な所	被災時に役立つ所	被災後も 大切にしたい所	その他
道が狭い 避難救助 が困難	Ox公園	古くからの コミュニティ	
		水辺の 風景	

**表② 復興まちづくりのテーマ**

今あるコミュニティや美しい風景は  
活かしつつ、地震時に逃げやすいまち

□ 表①を踏まえ、仮に被災した場合、どのようなまちとして復興したいか皆で決め (これがテーマ)、表②に記入します。

- 話し合いのルール**
- ・全員が一度は話しましょう。
  - ・人の話は最後まで聞きましょう。
  - ・自分とは違う意見も尊重しましょう。
  - ・考えたことは発言し、記録しましょう。
  - ・時間を守りましょう。

**ここで使うもの**

マーカーペン 発見・テーマ整理表

# まとめ

目的 | 復興まちづくりの目標・テーマを参加者で共有し、今後の活動を考えます。

## 発表を通して思いを共有しましょう (20分)



参加者全員の前で、班で検討した「まち歩き結果図」「発見・テーマ整理表」を発表しましょう。(5分/班)

- まち歩き結果図、発見・テーマ整理表を、参加者全員に見えるよう、壁などに貼りましょう。
- 班で代表者を決めて発表しましょう。他の方も発表に加わっていただいで構いません。
- 代表者は、自分の班の提案について発表します。基本的な発表の流れは以下のとおりです。

① まち歩き結果を振り返り、「地域で重要な発見が何であったか」について説明。



② 重要だと思う発見内容を踏まえ、「復興後にどういふまちにしたいか(復興まちづくりのテーマ)」を説明。

- 班の全員で、代表者がスムーズに発表できるようサポートしましょう。

発表します!



参加者

## 取組の継続・発展に向けて (10分)

可能であれば、以下を参考に、今後地域でどのような取組をしていくか考えてみましょう。

事前復興まちづくりの取組は、継続して取組むことが重要です。いつ起こるかわからない災害に備え、地域の方々が主体となって普段から復興をイメージしたり、まちづくりについて話し合う機会を作っておくことで、被災後の円滑な復興につながります。

ここでは、取組を継続し、発展させるためのアイデアを紹介します。皆さんの地域で必要だと思うアイデアは是非実践してみてください。

### ① 多くの人と共有する

- ・訓練の結果をかわら版にまとめ、地域で回覧します。
- ・より幅広い年齢層、職種の人を集めて再度訓練をすれば、新しい意見や提案があるかもしれません。



### ② 訓練プログラム(2日間)を実施する

- ・地域の課題が共有できたところで、次は被災した時の復興まちづくりの方向性を検討する訓練を実施する訓練プログラム(2日間)を活用し、引き続き事前復興まちづくりに取り組みます。

### ③ 話し合いを深める

- ・地域にとって重要なテーマを掘り下げて考えてみます。例えば・・・
- 避難路を確保する場合の優先順位や方法
- 災害時の消防・救助活動の仕方
- 空き家対策(地震時に危険なもの?、空き家カフェのように地域で活用? など)
- 被災後、生活再建をしていく手順や方法。話し合いの場や生活再建が困難な人への支援の仕方

### ④ 今からできることを実行する

- ・地域で役割や時期を決めて、今からできる取組を実行します。例えば・・・
- 定期的な防災訓練
- 防災マップ(危険箇所や避難路、避難場所、消火器や井戸の場所などを表示)の作成
- ブロック塀の撤去等まちづくりのルールづくり
- 地域で取組を進めるための組織づくり



### ⑤ 地域のつながりを強くする

- ・防災に限らない地域活動により、地域の繋がりが強くなります。例えば・・・
- 地域での清掃活動
- 隣近所への声掛け
- 祭りへの参加
- 地域の会合への出席など



### ⑥ 復興後のまちのビジョンとしてまとめる

- ・復興後のまちづくりを繰り返し検討し、ビジョンとしてまとめます。
- ・ビジョンは地域で共有しておきます。